

【担当教員】

各教官

【教員室または連絡先】

各教官室

【授業目的及び達成目標】

- (1) 修士課程における研究を含む分野に関する基礎的学力、研究遂行のための応用力を養う。
- (2) 修士の研究に関連する国内外の研究の現状を把握する。
- (3) 指導教官との討論を通じて、修士研究の意義、具体的研究目的の設定、研究計画・方法の検討を行う。
- (4) 国内、海外(特に英文)の学術論文の読解力、論文による表現力を養成する。

【授業キーワード】

セミナー、修士研究、文献輪読

【授業内容及び授業方法】

学生の研究課題に関する希望により少人数のグループに分かれ、各指導教官のもとに内外の専門書・論文の輪講、研究に関連する発表、討論を行う。

【授業項目】

指導教官が指示する

【教科書】

指導教官が指示する。

【参考書】

適宜、資料を配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

指導教官が成績を総合評価する。

【留意事項】

指導教官との交流を積極的に行うこと。

【担当教員】

各教官

【教員室または連絡先】

各教官室

【授業目的及び達成目標】

- (1) 修士課程における研究を含む分野に関する基礎的学力、研究遂行のための応用力を養う。
- (2) 修士の研究に関連する国内外の研究の現状を把握する。
- (3) 指導教官との討論を通じて、修士研究の意義、具体的研究目的の設定、研究計画・方法の検討を行う。
- (4) 国内、海外(特に英文)の学術論文の読解力、論文による表現力を養成する。

【授業キーワード】

セミナー、修士研究、文献輪読

【授業内容及び授業方法】

学生の研究課題に関する希望により少人数のグループに分かれ、各指導教官のもとに内外の専門書・論文の輪講、研究に関連する発表、討論を行う。

【授業項目】

指導教官が指示する。

【教科書】

指導教官が指示する。

【参考書】

適宜、資料を配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

指導教官が成績を総合評価する。

【留意事項】

指導教官との交流を積極的に行うこと。

【担当教員】

各教官

【教員室または連絡先】

各教官室

【授業目的及び達成目標】

- (1) 修士課程における研究を含む分野に関する基礎的学力、研究遂行のための応用力を養う。
- (2) 修士の研究に関連する国内外の研究の現状を把握する。
- (3) 指導教官との討論を通じて、修士研究の意義、具体的研究目的の設定、研究計画・方法の検討を行う。
- (4) 国内、海外(特に英文)の学術論文の読解力、論文による表現力を養成する。

【授業キーワード】

セミナー、修士研究、文献輪読

【授業内容及び授業方法】

学生の研究課題に関する希望により少人数のグループに分かれ、各指導教官のもとに内外の専門書・論文の輪講、研究に関連する発表、討論を行う。

【授業項目】

指導教官が指示する。

【教科書】

指導教官が指示する。

【参考書】

適宜、資料を配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

指導教官が成績を総合評価する。

【留意事項】

指導教官との交流を積極的に行うこと。

【担当教員】

各教官

【教員室または連絡先】

各教官室

【授業目的及び達成目標】

- (1) 修士課程における研究を含む分野に関する基礎的学力、研究遂行のための応用力を養う。
- (2) 修士の研究に関連する国内外の研究の現状を把握する。
- (3) 指導教官との討論を通じて、修士研究の意義、具体的研究目的の設定、研究計画・方法の検討を行う。
- (4) 国内、海外(特に英文)の学術論文の読解力、論文による表現力を養成する。

【授業キーワード】

セミナー、修士研究、文献輪読

【授業内容及び授業方法】

学生の研究課題に関する希望により少人数のグループに分かれ、各指導教官のもとに内外の専門書・論文の輪講、研究に関連する発表、討論を行う。

【授業項目】

指導教官が指示する。

【教科書】

指導教官が指示する。

【参考書】

適宜、資料を配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

指導教官が成績を総合評価する。

【留意事項】

指導教官との交流を積極的に行うこと。

【担当教員】

各教官

【教員室または連絡先】

各教官室

【授業目的及び達成目標】

修士研究のために、研究計画、装置の考案、設計、製作、実験、解析、数値計算、調査等を行う。

【授業キーワード】

修士研究

【授業内容及び授業方法】

学生の研究課題に関する希望により個別に決定された各指導教官との討論を通じて、研究、実験計画を検討し、これに基づいて各自が実行する。機械システム工学セミナーと密接に関連するものであるため、両者を平行して履修し、同一の教官の指導を受ける。課題の意義、実験の進め方等についてセミナーを初めとする日常的な機械において学習、検討、討論を重ねたうえで学生本人が積極的に課題に取り組む姿勢をもつことが不可欠である。

【授業項目】

各教官が指示する。

【教科書】

各教官が指示する。

【参考書】

適宜、資料を配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

指導教官が成績を総合評価する。

【留意事項】

指導教官との交流を積極的に行うこと。

【担当教員】

各教官

【教員室または連絡先】

各教官室

【授業目的及び達成目標】

修士研究のために、研究計画、装置の考案、設計、製作、実験、解析、数値計算、調査等を行う。

【授業キーワード】

修士研究

【授業内容及び授業方法】

学生の研究課題に関する希望により個別に決定された各指導教官との討論を通じて、研究、実験計画を検討し、これに基づいて各自が実行する。機械システム工学セミナーと密接に関連するものであるため、両者を平行して履修し、同一の教官の指導を受ける。課題の意義、実験の進め方等についてセミナーを初めとする日常的な機械において学習、検討、討論を重ねたうえで学生本人が積極的に課題に取り組む姿勢をもつことが不可欠である。

【授業項目】

各教官が指示する。

【教科書】

指導教官が指示する。

【参考書】

適宜、資料を配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

指導教官が成績を総合評価する。

【留意事項】

指導教官との交流を積極的に行うこと。

【担当教員】

専攻主任

【教員室または連絡先】

機械建設棟605

【授業目的及び達成目標】

機械工学に関係する専門分野の中から最新のテーマを選び、わが国の第一人者による講義によりそのテーマの現状と今後の展開を習得する。また、技術者倫理に関する講義を通して、技術の社会および環境に及ぼす影響、効果を理解し、技術者としての責任を認識する能力を養成する。

【授業キーワード】

技術者倫理、情報通信技術、メカトロニクス、レーザー加工、掘削技術、電子顕微鏡分析技術、材料開発

【授業内容及び授業方法】

6回の集中講義形式で行う。原則として非常勤講師による不定期の開講となる。

【授業項目】

講義内容は毎年変更となる。(平成14年度の講義予定を示す。)

1. ITを高度に活用した生産システムとその製品に対する社会的責任(中川泰夫)
2. 技術者の倫理と倫理学(新宮秀夫)
3. ロボット用サーボモータの現状と将来像(猪ノ口博文)
4. レーザー加工の現状と将来展望(鷲尾邦彦)
5. 極地氷床掘削装置の開発と掘削技術の現状(田中洋一)
6. 最新の電子顕微鏡分析技術を用いた材料開発(マヌエル・ブリト)

【教科書】

なし(必要に応じて資料を配布する)

【成績の評価方法と評価項目】

1. 評価方法
講義の出席状況および各課題の提出レポートにより評価する。
2. 評価項目
 - ①種々の分野の技術、開発方法に関心、興味が持てたか。
 - ②新しい技術、手法が開発される過程で生じた問題などがどのように解決されたかを学び、自分の研究課題を積極的に推し進める姿勢ができたか。
 - ③開発された技術、手法と社会との要請との関係を理解したか。
 - ④開発された技術、手法が社会に与える影響を考慮することや、結果に対して責任意識を持つことの重要性を認識したか。

【留意事項】

学期初めに開講日と場所、および講師と担当教官名を掲示する。レポートは本学の担当教官に提出すること。

【担当教員】

栗田 政則

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟 507号室

【授業目的及び達成目標】

材料評価や結晶構造解析に広く用いられているX線回折技術のうち、特に残留応力の有効な測定方法であるX線応力測定法、および回折線の広がり測定法とその材料評価への応用に重点をおいて、X線による測定理論と応用について修得する。

【授業キーワード】

X線回折, 多結晶材料, 残留応力測定, 応力, ひずみ, 弾性学, 材料力学, 材料工学, 統計学, 金属工学, 材料評価, パソコン, 測定の自動化

【授業内容及び授業方法】

X線回折による残留応力の測定法, および回折線の広がり測定法とその材料評価への応用について, 理論と多くの実測例を詳しく講義する。また, この方面における最近の研究・理論およびパソコンを用いた自動応力測定装置による測定法を習得する。さらに, X線回折による測定値の信頼性評価のための統計学的解析法について講義する。

【授業項目】

1. 残留応力
2. X線回折の基礎理論
3. X線応力測定法の理論
4. X線強度の統計変動による測定値の統計学的解析
5. X線による残留応力測定の実例
6. ガウス曲線パラメータによるX線回折線の広がり測定法と材料評価
7. X線応力測定装置の自動化技術

【教科書】

プリントとOHPを使用。

【参考書】

B.D.Cullity, Elements of X-Ray Diffraction, 2nd Edition, (1978), Addison-Wesley Publishing Company, Inc.

【成績の評価方法と評価項目】

試験およびレポート

【担当教員】

井原 郁夫

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟503室

【授業目的及び達成目標】

超音波は工学・工業の幅広い分野において活用されている。とりわけ非破壊計測手段としてのその利用は多彩であり、微小な電子デバイスから巨大なインフラストラクチャまで、あるいは胎児診断から海底探査までその応用には枚挙に暇がない。本講義では、超音波の発生方法や伝播理論を理解することにより超音波計測に必要な基礎知識を修得することとともに、超音波診断手法の原理と応用について学習する。また、測定データから必要な情報を取得するための定量的評価手法についての基礎を学ぶ。これらを通じて、工学者に要求される非破壊計測に関わる問題解決能力を培うことを目標とする。

【授業キーワード】

超音波、弾性波、非破壊検査、材料評価、デジタル信号処理、連続体力学、逆問題解析、シミュレーション、粘弾性、コーティング材料、異方性材料、プロセスモニタリング、苛酷環境

【授業内容及び授業方法】

授業項目に関するプリントを配布し、それに基づいて板書やプロジェクターによる平易な解説を行う。理解を深めるために実験機器やコンピュータによるデモンストレーションを適宜行う。習熟度を高めるために講義の合間に演習を行い、時にレポートを課す。

【授業項目】

1. 超音波とは(2回)
超音波の特徴、種類、発生方法、利用について概説する。
2. 超音波の伝播(2回)
等方性媒体、異方性媒体における弾性波伝播について説明する。また、境界面に沿って伝播する波(表面波)について説明する。
3. 反射と屈折(1回)
物質の境界面での反射と屈折に関わる超音波の挙動について説明する。
4. 発生と検出(1回)
圧電型超音波センサーの作動原理について説明する。
5. 超音波と材料(2回)
超音波の速度または減衰と材料特性との関係について説明する。
6. 非破壊評価(3回)
超音波を利用した非破壊計測手法の原理と応用について、実験室での精密計測から製造プロセスでのオンラインモニタリングまで概説する。
7. 信号処理とデータ解析(2回)
測定精度向上のための信号処理手法と定量的評価のための逆解析手法について説明する。
8. 先進計測技術とその応用(2回)
超音波顕微鏡、レーザー超音波、エアーカップル超音波、電磁超音波など先端技術の原理とその応用について概説する。

【教科書】

特に指定しない。第1回の授業以外は、予習のための講義概要プリントを事前に配布するので、それを参照されたい。

【成績の評価方法と評価項目】

成績評価の方法
成績は出席状況とレポートまたは期末試験に基づいて評価する。

評価項目

- (1) 超音波の特徴、発生法、検出法についての基礎知識を習得していること。
- (2) 弾性波としての超音波の挙動を連続体力学的アプローチにより定量的に考察できること。
- (3) 超音波と材料との関わりを理解し、非破壊診断手法としての活用の基礎を修得していること。

【担当教員】

宮田 保教

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟402

【授業目的及び達成目標】

近代凝固理論とその工学的応用について理解を深めることを目的とする。

【授業キーワード】

凝固、セル、デンドライト、熱・物質移動、自由境界問題、

【授業内容及び授業方法】

凝固学の基礎並びに凝固界面決定機構について、パターン形成の観点より、詳述し、その工学的応用法について急速凝固などを例に詳述する。

1. 生産手段としての凝固法
2. 実験的事実としての操作条件と凝固特性
3. 熱・物質移動の基礎方程式
4. 拡散方程式の解
5. 平らな界面成長: Mullins-Sekerkaの摂動理論
6. セル成長, デンドライト成長
7. 過冷凝固
8. 融液流動と凝固特性量
9. その他の凝固理論:
 - a) 数値シミュレーション
 - b) フェーズ・フィールド・モデル

【授業項目】

- 凝固界面決定機構について、
1. 凝固界面形態(平らな界面、セル、デンドライト)
 2. マリン・セケルカの摂動理論
 3. 近代凝固理論
を取り上げ、代表的な凝固方法である
 4. 過冷却凝固
 5. 一方向凝固
について適用し、その基本的事項を理解する。その工学的応用法については
 6. 単結晶成長
 7. レーザーを用いた急速凝固
などを例として詳述する。また、上記以外の凝固理論として
 8. 数値シミュレーション
 9. フェーズ・フィールド・モデル
について述べる。

【教科書】

使用しない。

【成績の評価方法と評価項目】

講義内容をもとに演習問題をだし、レポートにより評価する。

【担当教員】

武藤 睦治

【教員室または連絡先】

機械系1号棟608

【授業目的及び達成目標】

材料の破壊の特性(破壊機構等)および破壊に関する力学的手法について、具体的に解説するとともに、破壊力学的見地から設計上の配慮について論ずる。

【授業キーワード】

材料強度、材料力学、機械材料、破壊じん性、疲労、フラクトグラフィ、弾性力学、環境強度

【授業内容及び授業方法】

各種材料の破壊現象を巨視的ならびに微視的観点から理解する。破壊力学の基礎的事項を学ぶとともに、破壊力学を各種破壊の問題に適用する力を養う。
破壊力学を利用した構造物の設計について学ぶ。

【授業項目】

1. 破壊のメカニズム
2. 線形破壊力学
3. 非線形破壊力学
4. 破壊靱性とその試験法
5. 疲労
6. 応力腐食割れ(SCC)
7. 損傷許容設計

【教科書】

材料強度学(日本材料学会)

【成績の評価方法と評価項目】

講義終了後試験を行う。

【担当教員】

古口 日出男

【教員室または連絡先】

機械建設棟607

【授業目的及び達成目標】

近年、計算機及びその環境の充実・発展に伴い、これまでの学問体系を横断的に関連づけることにより計算力学という分野がうまれてきた。その計算力学で用いられる主要な計算手法である有限要素法や境界要素法に共通な概念として重み付き残差法がある。本講義では、重み付き残差法から出発し、有限要素法を初めとする数値解析法について解説する。

【授業キーワード】

差分法、有限要素法、重み付き残差法、変分原理、連続体力学

【授業内容及び授業方法】

初めに、ラプラス方程式に関する様々な解法を通して、偏微分方程式の近似解を得る方法を検討する。その後、近似解を内挿関数により表す方法を説明し、これを有限要素法で用いる方法について解説する。

【授業項目】

1. 計算力学入門
2. 連続体力学の境界値問題と数値的離散化
3. 非線形微分方程式及び重み付き残差法
4. 試験関数と近似解法
5. 有限要素法入門(その1)
6. 有限要素法入門(その2)
7. 有限要素法入門(その3)
8. 有限要素法入門(その4)
9. 高次の有限要素近似
10. 写像と数値積分
11. 変分原理と変分法
12. 誤差推定

【教科書】

指定しない

【参考書】

O.C.Zienkiewicz, 他 'The Finite Element Method' Mc. GrawHill. など。

【成績の評価方法と評価項目】

授業中に与えられた課題に対して提出されたレポート及び出席で評価する。

【留意事項】

受講者は、C言語あるいはFORTRAN言語を習得していることが望ましい。

【担当教員】

青木和夫・門脇 敏

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟602室・502室

【授業目的及び達成目標】

熱工学に関連する新しいテーマからいくつかを選び、各テーマに対する掘り下げた議論を展開する。これより、熱工学の現状を理解するとともに、熱が関与する現象に対する物理的なものの考え方を学ぶ。

【授業キーワード】

熱交換器, 特性解析, 多孔質層の伝熱
デトネーション, デフラグレーション

【授業内容及び授業方法】

熱工学の基礎が実践に如何に応用されるかをいくつかの異なる現象を通して理解し、最近の技術と熱工学の関わりを学ぶ。

【授業項目】

- 熱交換器の特性解析
1. 基本的な取り扱い
 2. 種々の熱交換器の特性解析
 3. 最適化の考え方
- 多孔質層内の伝熱
1. 多孔質層内の伝熱の基礎
 2. 毛管力場での多孔質層内の伝熱
 3. 相変化(蒸発・凝縮・凝固)を伴う多孔質層内の伝熱
- 燃焼波
1. 保存則
 2. デトネーション
 3. デフラグレーション

【教科書】

特に定めない。「伝熱工学資料」・「伝熱ハンドブック」(日本機械学会編), 「Principles of Combustion, by K.K.Kuo, Wiley-Interscience」を十分に活用する。

【成績の評価方法と評価項目】

中間・学期末試験および学習態度を総合的に判断する。

【留意事項】

学部の「伝熱工学」・「燃焼工学」を履修し、すでに基礎が理解されていることが望ましい。

【担当教員】

白樫 正高

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟603室

【授業目的及び達成目標】

日常生活、工業的応用において流れの現象は広範且つ密接に関係する。そして流体の運動を支配する理論的体系は厳密に数式化されている。にもかかわらず、実際的な多くの場合について、この理論のみに基づいて流れの現象を予測することは困難であり、必要に応じて、経験則、模型実験、数値実験等に依存している。この講義では、この流体力学の理論体系の構成を理解し、これと実際の現象との対応を明確に認識することにより、理論的方法の困難と限界、およびこれを解決する工学的手法の概要を習得することを目的とする。

【授業キーワード】

流れ場、実質微分、構成方程式、N-S方程式、完全流体、複素速度ポテンシアル、等角写像、渦と乱流

【授業内容及び授業方法】

流れは流体の運動であり、古典物理学の範囲での物理法則に基づいて厳密な議論により基礎方程式が導かれる。本講義では、これを導く過程を明らかにするため、流れ場の数式的表現とこれに対する物理法則の適用の考え方を明確にし、また、対象となる実体としてのニュートン流体とは何か、その力学的性質はどのように定式化されるか、を厳密な仮定の吟味の上で導き、モデルとしてのニュートン流体と実在流体の相違を論じる。次に、これらにより得られたN-S方程式の数学的性質とその解を求める際の困難さの原因を説明する。そして、実際の問題に対して必要な結果を得るための手法の概要を講述する。

【授業項目】

1. 流体力学とは何か
2. 流れの運動の基礎方程式の導出
3. N-S方程式の解への努力
4. 完全流体の流れ
5. 渦と乱流

【教科書】

「流体の力学」(須藤浩三、長谷川富市、白樫正高、コロナ社、1994)

【参考書】

- 1) 流れのファンタジー、可視化情報学会、講談社
- 2) 流れの科学、木村竜治、東海大学出版会
- 3) Boundary Layer Theory, H. Schlichting, McGraw-Hill.

【成績の評価方法及び評価項目】

試験の成績、授業に対する積極的態度、宿題、試験を総合的に評価する。

【留意事項】

学部段階で、水力学および流体工学を履修していることが望ましい。

【担当教員】

増田 渉・金子 寛

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟501(増田)・605(金子)

【授業目的及び達成目標】

次の点について理解を深めることを目的とする。

1. 高速空気力学と、その機械工学への応用
 2. トライボロジーの概念と、粘性流体のトライボロジーへの寄与
- 講義で学んだ事項を実際の工学的、工業的な問題に適用できる能力を会得することを達成目標とする。

【授業キーワード】

高速空気力学、トライボロジー

【授業内容及び授業方法】

高速空気力学およびトライボロジーに関する講義項目(2項目)について、1学期の前半と後半に分け、OHPおよび配布資料などを適宜用いて講述する。

【授業項目】

1. 高速流体力学関連
 - (1)圧縮性流体力学の基礎方程式
 - (2)衝撃波
 - (3)等エントロピー流れ
 - (4)ファノ流れ
 - (5)レイリー流れ
2. トライボロジー関連
 - (1)トライボロジーとは何か?
 - (2)摩擦の生じる原因
 - (3)摩擦の状態
 - (4)潤滑モード
 - (5)固体表面および接触
 - (6)境界潤滑
 - (7)潤滑油の種類と性状
 - (8)すべり軸受の流体潤滑理論
 - (9)摩擦の例題(人工関節、スキーなど)

【教科書】

特に指定しない。

【成績の評価方法と評価項目】

1. 評価方法
二つの講義項目についてそれぞれレポートまたは試験を行い、両者の結果(50%ずつ)を総合して評価する。
2. 評価項目
 - (1)圧縮性を考慮した流体力学の基礎方程式の導出方法を習得したか。
 - (2)流体力学の基礎方程式をいくつかのタイプの流れに適用できたか。また各流れに対する理論的な考察能力を身につけたか。
 - (3)トライボロジーに関する基礎知識を習得したか。
 - (4)乾燥・境界潤滑、流体潤滑とは何か、また各潤滑形態を支配する因子とその影響について理解したか。
 - (5)流体潤滑理論(レイノルズ方程式)の導出過程と物理的な意味を理解したか。

【担当教員】

高橋 勉

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟601室

【授業目的及び達成目標】

機能性の高い材料が開発されるとともに、従来では見られなかった流動特性を有する流体に対する取り扱いが急速に要求されるようになってきた。この講義では、流体力学では取り扱いの困難なこれら非ニュートン流体の流れに対して、具体的な特異流動の例を示しながら流動方程式および構成方程式の基礎を解説する。

【授業キーワード】

レオロジー・非ニュートン流体力学・粘弾性流体・構成方程式・テンソル解析

【授業内容及び授業方法】

非ニュートン流体の特異現象については実例を示しながら概説する。運動方程式、構成方程式の数学的な取り扱いについては例題と演習を交えて、解析的能力を修得する。特に、構成方程式の理解に不可欠なテンソル解析の基礎および応用を演習を交えて習得する。

【授業項目】

1. 流体の分類
2. 非ニュートン流体の特異流動
3. 非ニュートン流体の運動方程式
4. 応力と変形の関係(構成方程式)
5. 一次元MaxwellモデルおよびVoigtモデル
6. 構成方程式の3次元への拡張
7. 非ニュートン流体の流動解析
8. 非線形粘弾性流体モデルへの拡張

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

『非ニュートン流体力学』、中村喜代治、コロナ社、1997

『Dynamics of Polymeric liquids: Vol. 1 Fluid Mechanics』、R.B. Bird, R.C. Armstrong and O. Hassager, John Wiley & Sons, 1987

【成績の評価方法と評価項目】

授業中に与えられた課題に対して提出されたレポートにより評価する。

【担当教員】

木村 哲也

【教員室または連絡先】

機械棟308

【授業目的及び達成目標】

ロバスト制御理論等最先端の制御に対する理解を深めるために重要となる事柄を詳しく学習することを目的とする。

【授業内容及び授業方法】

理論的展開を丁寧に解説する。また、コンピュータシミュレーションを駆使して、学んだ理論に基づいて実際の制御系設計を行う。

【授業項目】

1. フィードバック制御系の内部安定性
2. 安定化制御器のパラメータ化
3. 線形ロバスト制御
4. 非線形システムの制御
5. Computer Aided Control System Design

【参考書】

「ロバスト制御」木村、藤井、森 著、コロナ社

「ロバスト最適制御」Kemin Zhou 著、劉 康志、羅 正華訳、コロナ社

【成績の評価方法と評価項目】

レポート、試験などにより総合的に評価する。

【留意事項】

受講者は、大学院1学期の講義「現代制御特論」を受講しているかまたはその内容を理解していることが望ましい。また、線形代数の知識をフルに使うので、ある程度知っていることが望ましい。

【担当教員】

高橋 秀雄

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟403

【授業目的及び達成目標】

現代数学の中から、比較的準備を必要としない話題を取り上げ、その取り扱い方の基となる手法、考え方、記述について学ぶ。物を扱うわけではないので、もっぱら自らの思索に頼るばかりであるが、創造力を養って欲しいと考えている。

【授業内容及び授業方法】

あまり予備知識を仮定しないで、判らなくなったらいつでも道草を食おう、の精神で。テキストをゼミ形式で読み継ぎながら、新しい概念に取り組む。

【授業項目】

主に代数学・幾何学に関連した話題を取り上げる。

【教科書】

必要に応じてプリントを配る。

【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

【成績の評価方法と評価項目】

個別に指定された範囲の内容の理解のチェックとレポートに対する評価

【留意事項】

時間が十分とは限らないので、まとまった形のものを期待される向きには期待に添えないかもしれないが、少し別の分野も覗いてみよう、という方にお勧めする。また受講者の希望があり、趣旨に沿うものであれば取り上げるのに吝かではない。事前に相談してください。

【担当教員】

武田 雅敏

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟509

【授業目的及び達成目標】

資源・エネルギーの有効利用、環境安全性の観点から、材料の特性に対する要求、制限がより厳しくなっている。そのような状況で材料を開発するためには、物質の中で起こっている現象を正しく理解し、それを応用する力を養う必要がある。この講義では、エネルギー変換材料を中心に、固体物理の基礎と応用力を身につけることを目的とする。

【授業キーワード】

結晶構造, バンド構造, 伝導機構, エネルギー変換材料

【授業内容及び授業方法】

導入として固体物理の基礎的事項を学んだ後、実際の固体材料(熱電変換材料など)について固体物理の視点からその機能の発現について学習する。

配付資料, OHPなどによる講義を行う。また、講義内容に関する課題を与え、各自プレゼンテーションを行うことを予定している。

【授業項目】

1. 結晶構造と対称性(3回)
化学結合, 結晶の対称性, 構造解析
2. 格子振動と物性(3回)
フォノン, 固体の熱的性質
3. 電子構造と電気的特性(4回)
エネルギーバンド, 電気伝導
4. 熱電変換材料の基礎(5回)
熱電現象, 変換効率, 熱電発電, 最近の話題

【教科書】

なし

【参考書】

「固体物理学入門」C.Kittel著, 宇野良清, 津屋昇, 森田章, 山下次郎共訳, 丸善株式会社

【成績の評価方法と評価項目】

講義中の課題(40%), レポート(60%)により評価する。

【担当教員】

永澤 茂

【教員室または連絡先】

機械建設系1号棟301室

【授業目的及び達成目標】

機械技術者の素養として、各種のプログラミング言語を使ったデータ処理作業の得失や処理系の開発方法論について学習する。特にオブジェクト指向モデリングの考え方と表形式データベースの基礎と応用の知識を身につける。また素養育成として、UNIX管理機構と基本的な構文解析ならびに検索技法について学習する。

【授業キーワード】

オブジェクト指向技術、関係データベース、UNIX管理機構、仕様記述言語、事例推論と認知

【授業内容及び授業方法】

オブジェクト指向プログラミングの考え方について概要を眺めた後、UNIXの管理機構とプログラミング言語(yacc/lex, ruby)の基本利用を理解し、演習によって仕様変換記述の開発体験や表形式データベースの操作管理技術を修得する。

【授業項目】

1) UNIX管理機構と環境設定 2) ruby によるオブジェクト指向プログラミング 3) RDB,正規理論, 事例検索モデル 4) yacc, lex 仕様記述

【教科書】

- 1) ゼロからわかるオブジェクト指向の世界, 岩田裕道, 手島歩三著, 日刊工業新聞社 ISBN 4-526-03843-1
- 2) オンライン資料

【参考書】

- 1) 情報の検索とデータベース, 中原啓一, 三次 衛監修, 電子情報通信学会
- 2) オブジェクト指向スクリプト言語ruby, まつもと・石塚共著, アスキー, ISBN 4-526-03843-1
- 3) 情報検索入門, 長沢 雅男著, 森北出版
- 4) UNIXプログラミング環境, Brian W. Kernighan, Rob Pike著, アスキー出版
- 4) Perl for beginner's, 伊藤 和人著, 秀和システム
- 5) データベースがわかる本, 鈴木健司著, オーム社
- 6) オブジェクト指向がわかる本, 佐藤英人著, オーム社 ISBN 4-274-07858-2
- 7) デザインパターン入門講座, James W. Cooper著, ピアソンエデュケーション, ISBN 4-89471-256-3

【成績の評価方法と評価項目】

筆記試験ならびに演習レポートにより評価する。

【留意事項】

受講者は、履修直後から適当な UNIX コンピュータを利用して演習を行うことが望ましい。

【参照ホームページアドレス】

<http://multi2/~snaga/>
機械系情報関係教材サーバ

【担当教員】

滑川 徹

【授業目的及び達成目標】

ロバスト制御の代表である H^∞ 制御と 構造化特異値に基づく μ -解析・シンセシスの基礎と応用を習得することを目的とする。特に不確かなシステムの表現法とモデルの不確かさを扱う制御系設計法に関して理解を深める。

【授業内容及び授業方法】

数式ばかりで説明するのではなく、制御系設計用ソフトMATLABなどを用いて制御系設計の具体例を示し、直感的理解が容易になるように講義する。

【授業項目】

1. モデルの不確かさとロバスト制御
2. 信号とシステムのノルム
3. ロバスト安定化
4. H^∞ 制御問題とその一般解
5. 規約分解表現とコントローラのパラメトリゼーション
6. μ -解析・シンセ시스
7. 線形行列不等式による H^∞ 制御
8. ロバスト制御系設計の実際

【教科書】

「制御系設計－ H^∞ 制御とその応用－」細江繁幸，荒木光彦監修，朝倉書店
その他資料を配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

レポート，期末試験により評価する。

【留意事項】

学部の講義「制御工学」，「現代制御基礎」を受講していることが望ましい。

【担当教員】

秋山 伸幸

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟405

【授業目的及び達成目標】

主として生産工程における加工, 組立, 検査, CAD/CAM, 物流への応用を目的として, 画像の検出, 光学的画像処理, デジタル画像処理, 2, 3次元計測の理論と実用例を講述する. これにより, 画像応用製品の設計・製作および生産ラインにおける画像応用設備の設計・製作を可能とする技術を習得する.

【授業キーワード】

画像検出, 画像処理, 計測, 検査, 認識アルゴリズム

【授業内容及び授業方法】

「光計測光学」または「応用光学」で学んだ光学的検出法を基礎にして, 検出した画像の光学的及び計算機上での処理法を学ぶ. 光学的画像処理法として, レンズ系とフーリエ変換との関連を学び, 空間周波数フィルタを用いた検査装置, 組立装置を習得する. 次に画像を計算機に入力する方法(サンプリング理論)と信号前処理を学び, 計算機上での各種の認識アルゴリズムを習得する. 最後にこれらの技術を用いた実用例と実際の装置の設計法を習得する. 授業は随時演習を交えて進める.

【授業項目】

1. フーリエ変換光学の理論と応用
2. 光学計測の単位と評価法
3. 画像検出装置の理論と特徴
4. 画像情報のデジタル化
5. 画像入力法と装置
6. 画像の強調と復元
7. 特徴抽出(図形の連結性、骨格線抽出、拡大と縮退、エッジ検出、テクスチャ)
8. 画像の記述法
9. テンプレートマッチング
10. 生産工程への応用

【教科書】

「画像工学」南 敏・中村 納 著 コロナ社

【成績の評価方法と評価項目】

随時課題を出し, レポートを提出してもらうことにより評価する.

【留意事項】

1. 受講者は「光計測光学」または「応用光学」, 「情報処理」, 「波動・振動」を習得している事が望ましい.
2. 不明な点は授業中に質問すること. 授業時間以外の質問は随時受け付けるが, 電子メールでも受け付ける. アドレスは以下のとおりである.
akiyama@mech.nagaokaut.ac.jp

【担当教員】

Alfred Neudoerfer (アルフレッド ノイドルファー)

【教員室または連絡先】

513 or Centre for Multimedia Systems

【授業目的及び達成目標】

In the recent movement of global standardisation for safety management systems and of requirements the EC-Countries for safety supply of machinery the Japanese industry strongly demands professionally educated safety engineers. That is the reason why the Nagaoka University of Technology has determined to develop the education of safety engineering.

【授業キーワード】

Design errors and accidents
Working system: principle, examples
Dangerous situations, risks, risks-assessment
Hazard points, hazard places and dangerous situations at machines
Design methods against stochastic risks
Direct safety methods against deterministic risks
Methods of indirect safety technology
Safety guards, protective barriers, distance guards
Sensitive safety devices
Safety guards: Design methods and rules
Safety information
Aspects of geometry, energy and information in ergonomic design of machine

【授業内容及び授業方法】

Interactive lecture, video films, moderation-method

【教科書】

Neudoerfer, A.: Konstruieren sicherheitsgerechter Produkte, Berlin, Heidelberg: Springer-Verlag, 1997, in German
Japan Printing Machinery Manufacturers Association (Editor): Integration of Safety in the Construction and Design, Tokyo, 2001, in English and Japanese

【成績の評価方法と評価項目】

Evaluations Test: written exam
Awards: The lecture got the Grand Prize (Higher Education) of the international Competition "Education and training products for the prevention of health and safety hazards" in the European Year of Safety, Hygiene and Health Protection at Work, 1993

【担当教員】

蓬原 弘一

【教員室または連絡先】

機械建設棟515

【授業目的及び達成目標】

人間機械システムにおいて安全性確保の基礎的論理構造を説明すると共に、システムの安全性評価の手法を学習する。具体的には、人間と機械可動部が共有する空間と機構部・制御システムを含めて全体システムの安全性確保機能を論理式を用いたモデル図で表現し、それに基づく安全性の評価手法及び安全に関わるシステムの構成理論を学習する。目標は安全確保のシステムをできる限り論理式を用いて表すことである。

【授業キーワード】

論理関数、フェールセーフ、ブロック・セクション・コントロール、リスクアセスメント、安全管理、システム安全

【授業内容及び授業方法】

教科書、OHP、実物などを用いて講義する。実用のシステムの中から沢山の演習問題を取り上げ議論し、論理的表現の訓練を行う。

【授業項目】

1. 安全性の論理的表現
システムの安全性を論理的に扱うための準備を行う。
2. ブロック・セクション・コントロール
人間と機械可動部、または機械可動部と機械可動部が衝突することなく作業を行うための基礎的論理構造を説明し、それを論理式を用いて示す。
3. シグナリングシステムと安全管理
安全確保システムの重要な構成方法の一つとしてシグナリングシステムを扱う。シグナリングシステムは情報伝達の順序に安全確保上で大小関係を伴う構造である。
4. 安全確保装置構成論
安全確保のための保護装置における機能を13通りの演算子を用いて表現する。演算子は非対称誤りの出力特性をもつ。事例は演習問題を含めて20通り以上とする。
5. リスクアセスメント概説
講義のまとめとして、リスクアセスメントの方法例を概説する。

【教科書】

「システム安全(安全基礎工学)」蓬原弘一、向殿政男 共著

【参考書】

「安全システム構築総覧」(安全技術応用研究会)
「国際化時代の機械システム安全技術」(日刊工業新聞社)
「ISO機械安全・国際規格」(日刊工業新聞社)

【成績の評価方法と評価項目】

1. 評価方法
 - ・演習問題の回答内容(50%)と回答数(30%)による
 - ・レポート提出(20%)
2. 評価項目
 - ・安全システムを論理的に思考することができる
 - ・論理的思考をシステム全体に応用できる
 - ・安全システムを論理関数で表現できる
 - ・ISO13849-1を理解することができる

【留意事項】

本講義は安全工学コースを対象とする。授業時間以外の質問を電子メールで受け付ける。上記の授業項目で時間が不足する場合は補習の時間を別途組み込むことができるものとする。演習問題の回答はすべて授業時間外で、かつ、電子メールまたは通信による。各授業項目で演習問題が用意されるので、学生は平均2週間ごとに回答が必要となる。

【担当教員】

石崎・マクガウン

【教員室または連絡先】

V. McGown (Room 404, Chemistry Build.,ext. 9363)

K. Ishizaki (Room 333, Mech. Engin. Build, ext. 9703), Students are recommended to register in the mail group:

nut-oral-presentation@egroups.co.jp

【授業目的及び達成目標】

The focus will be on preparation and presentation of academic papers for international conferences and active participation in discussion and debate. This class will teach the framework and necessary skills for delivering effective speeches. In principle, this subject is available only to students who demonstrate a reasonable fluency in reading and speaking English.

【授業内容及び授業方法】

Class time will include giving brief speeches, developing speech ideas in groups, discussing effective preparation and delivery of public speeches, and learning how to participate in discussion and debate. Students will be required to select an academic paper in their own area of research as the basis for their oral presentations.

【授業項目】

We will discuss such factors as 1) constructing the basic Introduction/Body/Conclusion of a speech 2) gaining and maintaining audience attention and rapport 4) developing audio-visual aids, and 5) researching sources of information.

【成績の評価方法と評価項目】

Grades will be based on the following: 25% Attendance and Participation, 35% Speech Manuscripts and Content, 40% Speech Presentations

【留意事項】

Class size will be limited to 14 maximum based on an interview and a reading exercise conducted during the first two classes with the teachers.

Students taking the Oral Presentation class are expected to attend all class periods (2nd and 3rd period on Friday). Written Presentation cannot be taken at the same time.

【担当教員】

原田 信弘・()

【教員室または連絡先】

電気1号棟403号室(内線9511)

【授業目的及び達成目標】

Students should gain a better understanding of formal scientific writing in general and journal articles in particular.

【授業内容及び授業方法】

The course includes individual assignments, textbook exercises, small group work and personal conferences. Students are expected to write a short (non-technical) research paper based on a class project.

【授業項目】

This course introduces such subjects as:

- 1) the structure of a research paper
- 2) formal and informal language
- 3) common trouble points
- 4) connecting ideas and sentences

【教科書】

Writing Up Research (Prentice-Hall)

【成績の評価方法と評価項目】

Evaluation is based on the quality and quantity of work done, as well as attendance.

【留意事項】

The class is limited to twenty students. If more are interested, selection is based on a written assignment. Students must be able to attend BOTH 2nd and 3rd period.
2時限と3時限両方に出席できる人のみ受講を認めます。

【担当教員】

原田 信弘・()

【教員室または連絡先】

電気1号棟403号室(内線9511)

【授業目的及び達成目標】

Typically, researchers decide whether to read an article based on the title and the abstract. For this reason, the title and abstract are the most often read sections of a paper. Increased comfort with reading and writing abstracts will benefit students in their research.

【授業内容及び授業方法】

In this class, students will practice reading and writing abstracts for journal articles and theses or dissertations. The class will cover the structure of abstracts and common patterns of vocabulary and grammar. A large number of authentic samples will be used. Both English and Japanese will be used for classroom instruction.

【教科書】

handouts

【成績の評価方法と評価項目】

Evaluation will be based on quality and quantity of in-class work and homework, and on attendance.

【担当教員】

Alfred Neudoerfer (アルフレッド ノイドルファー)

【教員室または連絡先】

513 or Centre for Multimedia Systems

【授業目的及び達成目標】

In the recent movement of global standardisation for safety management systems and of requirements the EC-Countries for safety supply of machinery the Japanese industry strongly demands professionally educated safety engineers. That is the reason why the Nagaoka University of Technology has determined to develop the education of safety engineering.

【授業キーワード】

Design errors and accidents
Working system: principle, examples
Dangerous situations, risks, risks-assessment
Hazard points, hazard places and dangerous situations at machines
Design methods against stochastic risks
Direct safety methods against deterministic risks
Methods of indirect safety technology
Safety guards, protective barriers, distance guards
Sensitive safety devices
Safety guards: Design methods and rules
Interlocking devices with and without guard locking
Supply disconnecting devices, emergency stop devices
Working platforms, gangways, steps and access stairs
(Un)safety behaviour
Safety information

【授業内容及び授業方法】

Interactive lecture, video films, moderation-method

【授業項目】

Basic concepts, general principles and methodology for design of safety machines

【教科書】

Neudörfer, A.: Konstruieren sicherheitsgerechter Produkte, Berlin, Heidelberg: Springer-Verlag, 2001, in German
Japan Printing Machinery Manufacturers Association (Editor): Integration of Safety in the Construction and Design, Tokyo, 2001, in English and Japanese

【参考書】

written exam

【成績の評価方法と評価項目】

The lecture got the Grand Prize (Higher Education) of the international Competition “Education and training products for the prevention of health and safety hazards” in the European Year of Safety, Hygiene and Health Protection at Work, 1993

【担当教員】

Alfred Neudoerfer (アルフレッド ノイドルファー)

【教員室または連絡先】

513 or Centre for Multimedia Systems

【授業目的及び達成目標】

Neglect of ergonomic principles in machine design reduce the usefulness and the safety of machine. An important requirement of the EC-Directive “Machines” is to design machine according to ergonomic principles.

【授業キーワード】

Working system: principle, examples
Interaction between machinery and task
Aspects of geometry, energy and information in ergonomic design of machine
Human physical performance
Manual handling of objects associated to machinery
Force limits for machinery operation
Human body measurements and anthropometrical data
Body postures during machine operation
Dimensions required for access opening, steps and access stairs
Human interactions with displays and control actuators
Ergonomic requirements for the design of displays and controls
Coding principles for indication devices and actuators

【授業内容及び授業方法】

Interactive lecture, moderation-method

【授業項目】

Basic concepts, general principles and methodology for design of safety machines

【教科書】

Script

【参考書】

written exam

【担当教員】

蓬原 弘一

【教員室または連絡先】

機械建設棟515

【授業目的及び達成目標】

安全関連制御システム構築の基礎理論を扱う。現在国際的には安全性に関連してコンピュータ利用を含めて、センシングシステム、制御システム及び通信システムの標準化が急速に進みつつある。この標準化の最大の特徴は、システムの安全性評価がシステムに潜在する危険源の分析とリスクアセスメントに基づく点にある。講義ではソフトウェア及び通信形態を含めて、実用的かつ国際標準にそって制御システムのあり方、並びに解析手法を学習する。目標は安全上からシステムの構造評価が行えるようになることである。

【授業キーワード】

危険源分析、リスクアセスメント、機能的安全性、安全関連システム、安全管理

【授業内容及び授業方法】

教科書、OHP、実例などを用いて講義する。その他に課題テーマに対して各自レポートを提出していただく。

【授業項目】

1. 安全な機械の設計概説
制御システムを含めて安全な機械の設計方法を国際標準レベルで概説する。
2. 危険源分析
安全に係わる機械類の危険源例を種々の分野で示し、危険源同定の方法を示す。
3. リスクアセスメントの基礎
リスクアセスメントで用いられる基礎的技法と技術的対処の方法について概説する。
4. 信頼性と安全性
信頼性の基礎的考え方とその安全工学への適用方法について学習する。
5. 安全性解析技法
安全性解析の基礎的手法として、FTA, ETA, FMEA, HAZOPなどを学ぶ。
6. ISO13849-1に基づく安全システム
電気機械系および圧力系、電気的ハードウェアによる制御システムの例を安全性能別に概説する。
7. IEC61508に基づく安全システム
プロバブル電子システムによる安全性確保の手順について概説する。

【教科書】

配布資料に基づく

【参考書】

「安全システム構築総覧」(安全技術応用研究会)
「国際化時代の機械システム安全技術」(日刊工業新聞社)
「ISO機械安全・国際規格」(日刊工業新聞社)
BIA-Report 6/97e「Categories for Safety-related Control Systems in Accordance with EN954-1」
その他国際安全規格

【成績の評価方法及び評価項目】

1. 評価方法
以下の内容による。
 - ・講義内容についてレポートを提出
 - ・課題テーマに関して論文提出
 - ・自発的テーマに関して論文提出
2. 評価項目
 - ・システムを安全性の観点で論理的に説明することができる
 - ・システムの安全性確保を論理式またはそれを用いたモデル図で表す
 - ・システムを安全関連部と非安全関連部に分離できる
 - ・リスクアセスメントによりシステムの安全性能の適合性を評価できる

【留意事項】

本講義は安全工学コースを対象とする。授業時間以外の質問を電子メールで受け付ける。上記の授業項目で時間が不足する場合は補習の時間を別途組み込むことができるものとする。論文の作成はすべて授業時間外である。執筆指導は電子メールまたは対話・通信による。授業は1学期の「システム安全」の講義と密接に関連する。

【担当教員】

蓬原 弘一

【教員室または連絡先】

機械建設棟515

【授業目的及び達成目標】

人間機械システムにおいて安全性確保の基礎的論理構造を説明すると共に、システムの安全性評価の手法を学習する。具体的には、人間と機械可動部が共有する空間と機構部・制御システムを含めて全体システムの安全性確保機能を論理式を用いたモデル図で表現し、それに基づく安全性の評価手法及び安全に関わるシステムの構成理論を学習する。目標は安全確保のシステムをできる限り論理式を用いて表すことである。

【授業キーワード】

論理関数、フェールセーフ、ブロック・セクション・コントロール、リスクアセスメント、安全管理、システム安全

【授業内容及び授業方法】

教科書、OHP、実物などを用いて講義する。実用のシステムの中から沢山の演習問題を取り上げ議論し、論理的表現の訓練を行う。

【授業項目】

1. 安全性の論理的表現
システムの安全性を論理的に扱うための準備を行う。
2. ブロック・セクション・コントロール
人間と機械可動部、または機械可動部と機械可動部が衝突することなく作業を行うための基礎的論理構造を説明し、それを論理式を用いて示す。
3. シグナリングシステムと安全管理
安全確保システムの重要な構成方法の一つとしてシグナリングシステムを扱う。シグナリングシステムは情報伝達の順序に安全確保上で大小関係を伴う構造である。
4. 安全確保装置構成論
安全確保のための保護装置における機能を13通りの演算子を用いて表現する。演算子は非対称誤りの出力特性をもつ。事例は演習問題を含めて20通り以上とする。
5. リスクアセスメント概説
講義のまとめとして、リスクアセスメントの方法例を概説する。

【教科書】

「システム安全(安全基礎工学)」蓬原弘一、向殿政男 共著

【参考書】

「安全システム構築総覧」(安全技術応用研究会)
「国際化時代の機械システム安全技術」(日刊工業新聞社)
「ISO機械安全・国際規格」(日刊工業新聞社)

【成績の評価方法と評価項目】

1. 評価方法
 - ・演習問題の回答内容(50%)と回答数(30%)による
 - ・レポート提出(20%)
2. 評価項目
 - ・安全システムを論理的に思考することができる
 - ・論理的思考をシステム全体に応用できる
 - ・安全システムを論理関数で表現できる
 - ・ISO13849-1を理解することができる

【留意事項】

本講義は安全工学コースを対象とする。授業時間以外の質問を電子メールで受け付ける。上記の授業項目で時間が不足する場合は補習の時間を別途組み込むことができるものとする。演習問題の回答はすべて授業時間外で、かつ、電子メールまたは通信による。各授業項目で演習問題が用意されるので、学生は平均2週間ごとに回答が必要となる。

【担当教員】

三上 喜貴

【担当教員】

矢鍋 重夫、太田浩之

【教員室または連絡先】

機械・建設1号棟 302室・506室

【授業目的及び達成目標】

機械の騒音・振動の実情を知り、特に安全工学の立場から騒音・振動の許容限界および騒音・振動防止の必要性を理解する。また、機械騒音・振動の測定方法を知り、騒音・振動の低減法についての基本的な知識を得る。さらに、騒音・振動に関する規格を知る。

【授業キーワード】

騒音、聴覚、聴器、聴感曲線、防音保護具、騒音計、騒音レベル、消音器、吸音、遮音、騒音規格、振動、衝撃、固有振動数、減衰比、加振力、衝撃力、共振、振動計、防振、振動公害、振動・衝撃規格

【授業内容及び授業方法】

講義を中心とし、時に宿題を課す。

【授業項目】

I 騒音

1. 騒音概論
2. 機械に関する騒音(機械騒音の実情,自動車の騒音,電気機械の騒音,機械要素の騒音)
3. 聴覚(聴器,聴感曲線,聴力に対する影響と許容限界,防音保護具)
4. 騒音の測定法(騒音計,騒音レベルの測定方法,騒音の評価)
5. 騒音の防止法(騒音対策の技術とその選定,音源側に加えるべき防音の技術,消音器および吸音ダクト,吸音による減音,壁の遮音)
6. 騒音に関する規格

II 振動

1. 機械振動・衝撃概論(固有振動数、減衰比、加振力、衝撃力、共振)
2. 機械の振動と破損(回転機械における実例)
3. 機械振動が人体に及ぼす影響(車両の乗り心地、振動公害、振動感覚、超低周波振動)
4. 機械振動・衝撃測定法(各種振動計の測定原理、測定方法、適用範囲)
5. 機械振動・衝撃に関する規格

【教科書】

なし。プリントを配布する。

【参考書】

「新版、騒音と騒音防止(第3版)」守田栄著、オーム社
「振動工学ハンドブック」代表編集者 谷口修、養賢堂(1976)

【成績の評価方法と評価項目】

学期末の試験またはレポートにより評価する。

【留意事項】

学部の機械力学など、騒音や振動に関する基礎科目を履修しておくことが望ましい。

【担当教員】

未定

【授業目的及び達成目標】

火災や爆発といった、燃焼現象が関与する災害に関して、予防対策や発生時の対処を適切に行うためには、これらの災害に深く関与する燃焼現象の基礎知識を学ぶことが不可欠である。本講義では、燃焼現象の基礎知識を学ぶとともに、火災の特徴についての理解を深めることを目標とする。

【授業内容及び授業方法】

導入として火災と爆発の過程について概要を解説した後、基礎的な燃焼現象、実際の火災の性状を説明し、最後に火災が人間に及ぼす害や火災時の人間行動の特徴を紹介する。

【授業項目】

- 1 火災と爆発
 - 1.1 火災の過程
 - 1.2 爆発の過程
- 2 燃焼現象の基礎
 - 2.1 基礎方程式
 - 2.2 予混合火炎と拡散火炎
 - 2.3 気体・液体・固体の燃焼
 - 2.4 燃焼速度・消炎距離
 - 2.5 層流火炎・乱流火炎
 - 2.6 着火の理論
 - 2.7 消火の理論
- 3 火災の性状
 - 3.1 伝熱の機構
 - 3.2 火災と熱気流
 - 3.3 煙の発生と流動
- 4 火災と人間
 - 4.1 火災生成物の有毒性
 - 4.2 火災熱等の人体への影響
 - 4.3 火災時の人間行動

【教科書】

特になし

【成績の評価方法と評価項目】

レポートで成績を評価する。(予定)

破壊制御工学特論
Fracture Control Engineering

講義 2単位 1,2学期

【担当教員】

武藤 睦治

材料強度学特論B

講義 2単位 1,2学期

Advanced Strength of Materials B

【担当教員】

田中 紘一

【担当教員】

阿部 雅二郎

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟504室

【授業目的及び達成目標】

建設機械に関する基礎工学であり、機械工学と土木工学の学際領域工学であるテラメカニクスの基礎的な考え方と応用方法を学び、身に付けることを主な目的及び達成目標とする。

【授業キーワード】

建設機械、テラメカニクス、土質力学、システム、相互作用、性能評価、安全性、信頼性、限界状態、国際規格

【授業内容及び授業方法】

建設機械とそれを取り巻く環境よりなるシステムを合理的に設計し、安全に運用制御かつ管理するために必須である土砂、岩石、雪氷等よりなる地盤と機械の相互作用について力学的に考察する。また、世界における関連研究の動向や建設機械と関係の深い国際規格等についても学ぶ。

【授業項目】

1. テラメカニクス概論
2. 地盤特性の測定法
3. オフロード走行車両の性能予測および評価法
4. オフロード走行車両のシミュレーション
5. シミュレーションに基づく設計
6. 建設機械工学に関するトピックス
7. 国際規格(機械安全、信頼性)等

【教科書】

J.Y. Wong 著「Terramechanics and Off-Road Vehicles」Elsevier
及び配布資料

【成績の評価方法と評価項目】

課題レポートにより評価する。主な評価項目は、(1)オフロード走行車両の走行性能に影響する地盤特性およびその測定法(2)オフロード走行車両の走行特性シミュレーション(3)建設機械と関係の深い国際規格に関する基礎知識の修得度である。

【担当教員】

田辺 郁男

【教員室または連絡先】

工作センター203

【授業目的及び達成目標】

1. 授業目的

多様な切削・研削加工法に対する概説をし、高度で高品位なもの作りのための問題解決能力を養う。また、それらの過程における安全性と信頼性に配慮するための技術的手法についても概説する。

2. 達成目標

学生が多様な切削・研削加工法を十分に理解し、加工における安全性と信頼性に関する知識を持ち、新しいもの作りのための問題解決能力を持つ。

【授業キーワード】

切削加工, 研削加工, 特殊加工, 安全性, 信頼性

【授業内容及び授業方法】

下記授業項目に従って、切削加工、研削加工、加工における安全性・信頼性の順に講述する。

【授業項目】

1. 固定工具による加工と超精密加工
2. 新素材を利用した工作機械
3. 特殊加工(放電加工, レーザー加工, ウォータージェット)
4. 光沢加工とFF加工
5. CBN砥石の有効利用
6. クリープフィード研削とスピードストローク研削
7. 作業環境と加工信頼性
8. 安全性・信頼性向上のための有限要素法を用いた加工シミュレーション

【教科書】

切削加工、研削加工、加工における安全性・信頼性に関する資料を担当教官が配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

1. 成績評価

切削加工2通、研削加工1通、安全性・信頼性1通の合計4通のレポート提出を義務づけ、そのレポートを評価す。

2. 評価事項

授業の理解度と新しいもの作りのための問題解決能力に関して評価する。

【担当教員】

木村 哲也、柳 和久

【教員室または連絡先】

機械棟308

【授業目的及び達成目標】

工学では、対象の的確な測定と測定データの数理処理、信頼性解析が重要であり、また得られたデータから適切な制御系を設計する能力も要求されている。本授業では、日本工業規格(JIS Z 8103)の体系に則り、計測を学術的に理解する能力を養うことを目的とする。また、状態空間に基づく制御系設計の基本的考え方をロバスト制御を中心に学習することも目的とする

【授業キーワード】

機械計測、精度、誤差、品質管理、SN比、フィードバック制御、フーリエ変換、パワースペクトル、周波数応答、内部安定性、可制御性、可観測性、ロバスト制御

【授業内容及び授業方法】

テキストの各項目に沿って実践的な解説を行う。必要に応じてOHPや配布資料を活用する。

【授業項目】

- (1) 計測の目的。単位系の標準と測定の種類
- (2) 長さ、形状の計測
- (3) 測定と誤差
- (4) 信号処理
- (5) スペクトル解析
- (6) 制御系の安定性
- (7) 制御系の可制御性、可観測性
- (8) 制御系のロバスト性
- (9) ロバスト制御系設計

【教科書】

新版「機械計測」 岩田耕一他（朝倉書店）

【参考書】

「計測工学の基礎」池田 卓郎著(オーム社)
「測定論ノート」大澤 俊彦著(裳華房)
「ロバスト最適制御」Kemin Zhou著、コロナ社

【成績の評価方法と評価項目】

出席、課題に対する報告書等から総合的に評価する。

【担当教員】

井原 郁夫

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟503

【授業目的及び達成目標】

工学・工業分野での非破壊計測手段の利用は多彩であり、その範囲は微小な電子デバイスから巨大なインフラストラクチャにまで至る。本講義では、超音波、放射線、レーザーなどの非破壊計測手法の原理と応用について講述する。非破壊診断とは「物理系において結果から原因を推定すること、すなわち複雑な逆問題を解くことである」との観点からその方法論を展開する。これらを通じて、工学者に要求される非破壊計測に関わる問題解決能力を培うことを目標とする。

【授業キーワード】

超音波、X線、赤外線、非破壊検査、弾性波、光弾性、材料評価、連続体力学、統計解析、逆問題解析、デジタル信号処理、コーティング、微小材料、プロセスモニタリング、苛酷環境計測、AE

【授業内容及び授業方法】

配布資料に基づいて板書やプロジェクターによる平易な解説を行う。理解を深めるために実験機器やコンピュータによるデモンストレーションを適宜行う。習熟度を高めるために講義の合間に演習を行う。

【授業項目】

1. 非破壊計測と診断
広義の非破壊評価、計測手段および評価手法の現状
2. 定量評価の基礎
計測データの取得、デジタル信号処理、誤差解析および逆問題解析
3. 連続体力学の基礎
応力、ひずみ、弾性定数、構成式
4. 力学応答の評価
弾性波による材料特性評価、X線回折による残留応力測定、光弾性
5. 探傷試験
放射線、超音波、磁粉、電磁誘導、浸透、AEなどによる探傷
6. 局所的評価
表面・薄膜、接合界面、欠陥、微視構造の評価
7. プロセスモニタリング
高温場でのin-situ計測、材料プロセスのインライン計測
8. 先進計測技術とその応用
非接触非破壊超音波計測、赤外線応用技術、レーザー応用技術、ナノインデンテーション
上記の各項目に対して1～2時間の講義および演習を行う。

【教科書】

特に指定しない。参考資料を配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

成績は出席状況、レポートまたは期末試験の結果に基づいて評価する。